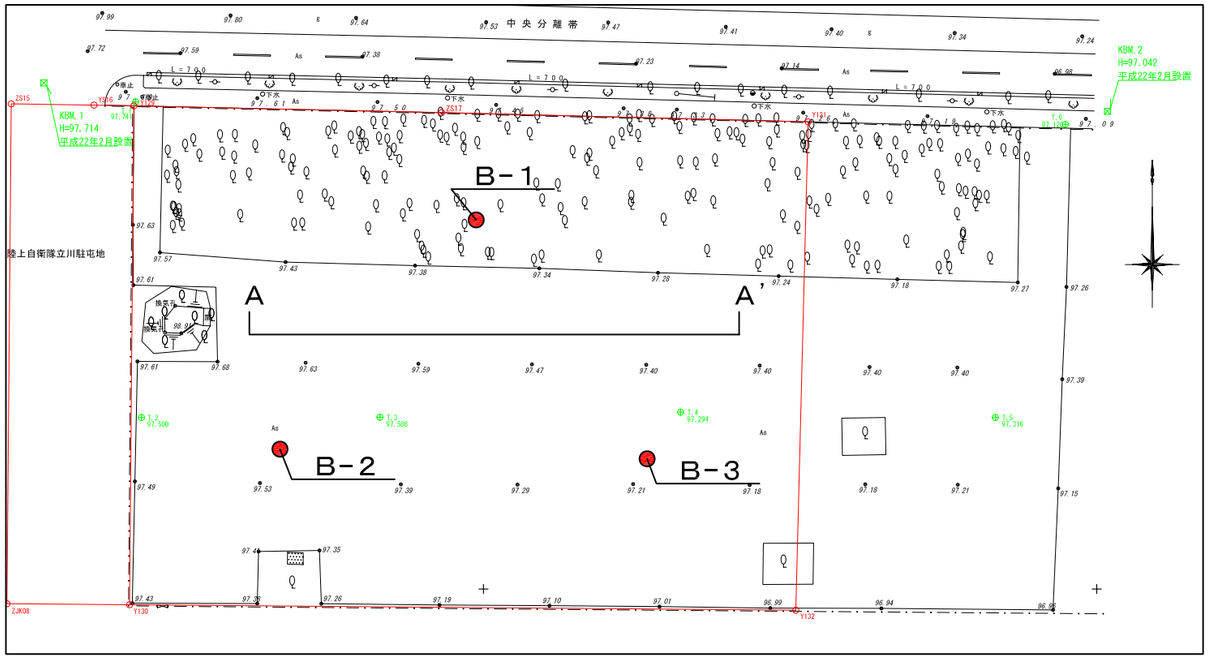
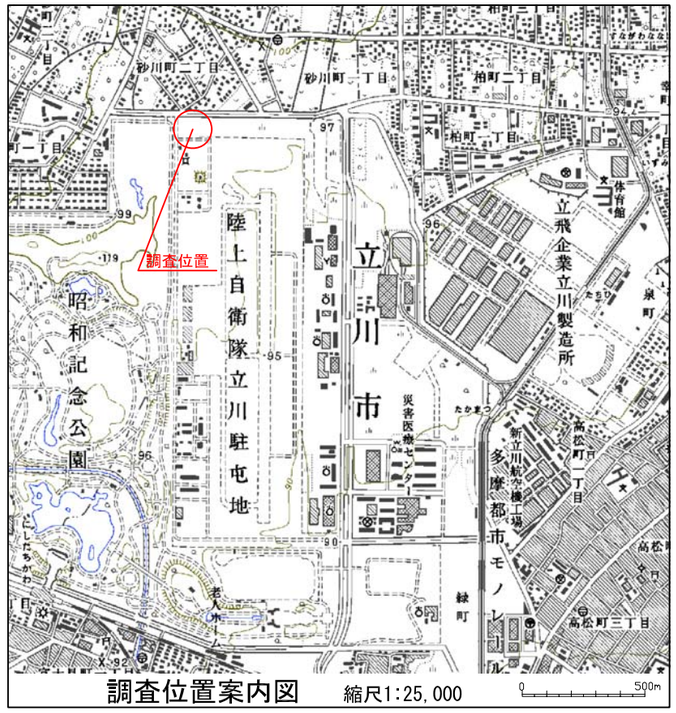
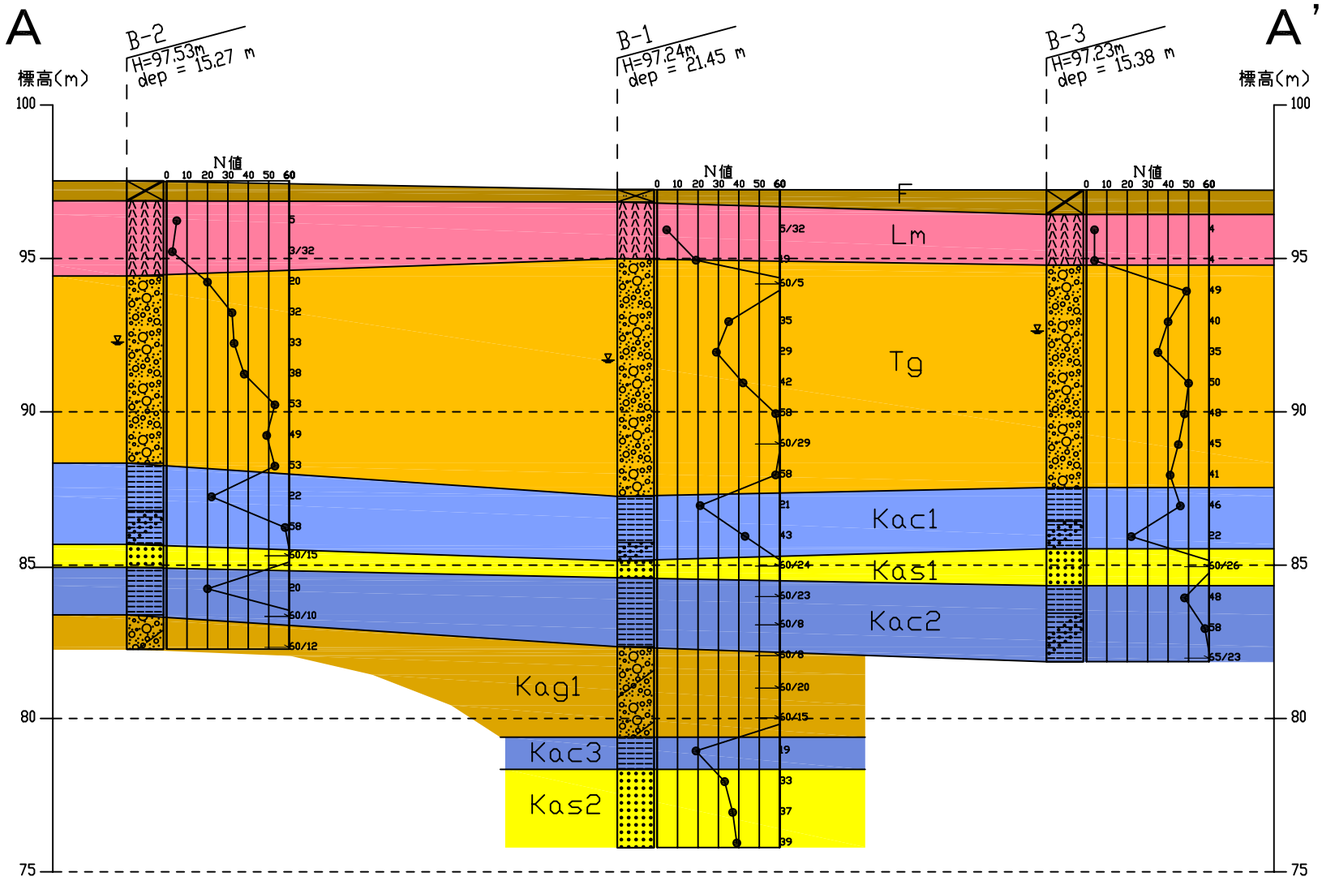
調査位置平面図　縮尺　1：1,000





調査位置案内図　縮尺1:25,000

想定地質断面図　縮尺　縦1：200　横1：400



地質層序表

地質時代	地層名		記号	土質	N値	記事
現世	表土・盛土		F	ローム質土 礫質土、黒ボク	―	地点によりローム質土、礫混り土砂、黒ボク等からなる。
第四紀	立川ローム層		Lm	火山灰質土	3～5	粘性中位の均質なローム。
	立川礫層		Tg	砂礫	10～60以上	φ20～50mmの亜円、亜角礫主体。上部にΦ100mm程度の玉石混在する。
第三紀	上総層群	第1粘性土層	Kac1	凝灰質シルト 砂質シルト	21～58	全体に硬質なシルト。上部は凝灰質を呈し、下部では砂を混入する。
		第1砂質土層	Kas1	細砂	60以上	粒子均一で密な砂層。
		第2粘性土層	Kac2	固結シルト、シルト	20～60以上	全体に硬質で粘性は少～中位。棒状コアとなる。
		第1礫質土層	Kag1	シルト混じり砂礫	60以上	マトリックスはシルト混じり細砂。礫はφ2～30mmの亜角礫。
		第3粘性土層	Kac3	シルト	19.0000	粘性中位。 均一なシルトである。
		第2砂質土層	Kas2	細砂	33～39	粒子均一。 全体に若干の粘性を持つ。

件　名	
調査地	東京都　立川市　泉町　1389-18　他
図面名	想定地質断面図
縮尺	図　示
作成年月	平成　２２　年　６　月
立　川　市	

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

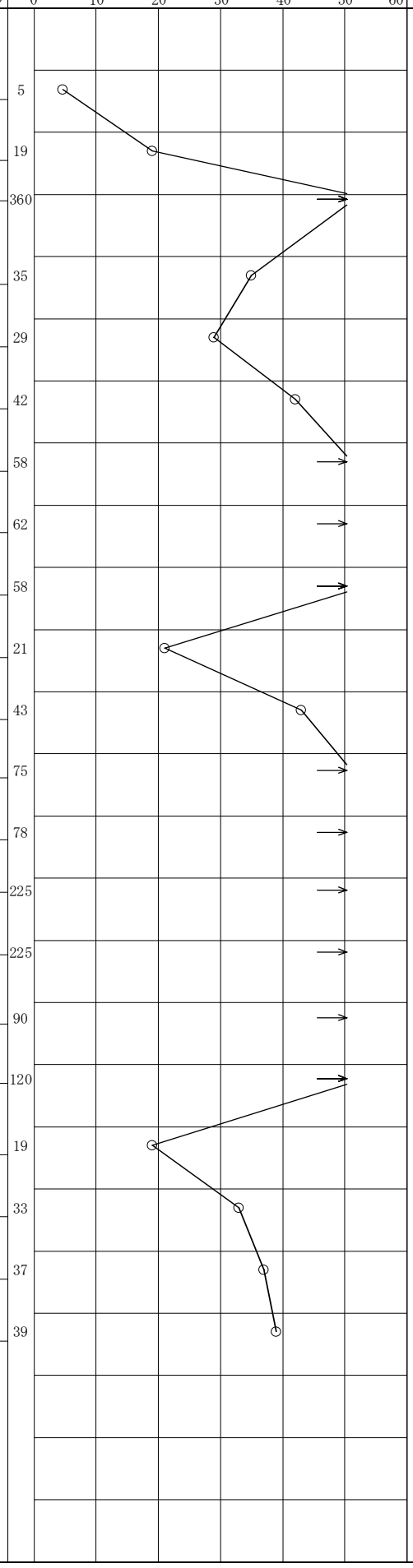
シートNo.

ボーリング名	B－1	調査位置	立川市泉町地内			北緯	35° 43’ 13.0″
発注機関	立川市			調査期間	平成 22年 5月 17日 ～ 22年 5月 18日	東経	139° 24’ 0.0″
調査業者名	電話	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H= 97.24m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KR－100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	21.45m								エンジン	NFD10N	ポンプ	V－6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	96.84	0.40	0.40		表土	暗褐灰			黒ボク主体。草根点在。ゆるい。	
1					ローム	茶褐		軟らかい	均質なロームである。	
2	94.99	1.85	2.25							
3					砂礫	茶褐～黄褐	密な～非常に密な		φ2～60mmの亜円～亜角礫主体。マトリックスは細砂主体にて粘性若干ある。 2.50～3.50mの間、最大φ90mmの玉石混在する。	
4										
5										5/19 5.56
6										
7									7.00mよりマトリックスにシルト混入する。全体に礫量少なくなり、密に締まる。 7.80mで逸水する。	
8										
9										
10	87.24	7.75	10.00							
11	85.74	1.50	11.50		凝灰質シルト	褐灰		非常に硬い	固結状を呈する。 部分的に若干の砂混入。 炭化物混入。	
12	85.14	0.60	12.10		砂質シルト	暗青灰		固結した	細砂を不規則に混在する。硬質である。	
	84.59	0.55	12.65		細砂	暗青灰	非常に密な		粒子均一。密に締まる。	
13					固結シルト	暗青灰～褐灰		固結した	固結し棒状コアとなる。	
14	82.34	2.25	14.90						14.0mより褐灰色となる。 14.0m上部有機物挟む(15mm)	
15					シルト混り砂礫	褐灰	非常に密な		φ2～30mmの亜角礫主体。 マトリックスはシルト質細砂主体。 17.65～17.85m礫少ない。	
16										
17	79.39	2.95	17.85							
18	78.34	1.05	18.90		シルト	黄灰		非常に硬い	均一なシルト。	
19					細砂	黄褐灰	密な		粒子均一。 全体に若干の粘性がある。	
20										
21	75.79	2.55	21.45							
22										
23										
24										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1/9	1/6	3/17	5/32	5
1.47					
2.15	1/9	7/11	11	19/30	19
2.45	60/5			60/5	360
3.05					
3.10					
4.15	11	13	11	35/30	35
4.45					
5.15	11	12	6	29/30	29
5.45					
6.15	12	15	15	42/30	42
6.45					
7.15	12	25	21	58/30	58
7.45					
8.15	19	21	20/9	60/29	62
8.44					
9.15	20	19	19	58/30	58
9.45					
10.15	5	6	10	21/30	21
10.45					
11.15	8	14	21	43/30	43
11.45					
12.15	16	27	17/4	60/24	75
12.39					
13.15	18	28	14/3	60/23	78
13.38					
14.15	60/8			60/8	225
14.23					
15.15	60/8			60/8	225
15.23					
16.15	31	29		60/20	90
16.35					
17.15	30	30/5		60/15	120
17.30					
18.15	5	7	7	19/30	19
18.45					
19.15	8	10	15	33/30	33
19.45					
20.15	7	12	18	37/30	37
20.45					
21.15	6	13	20	39/30	39
21.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						5/17
						5/18

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNo.										

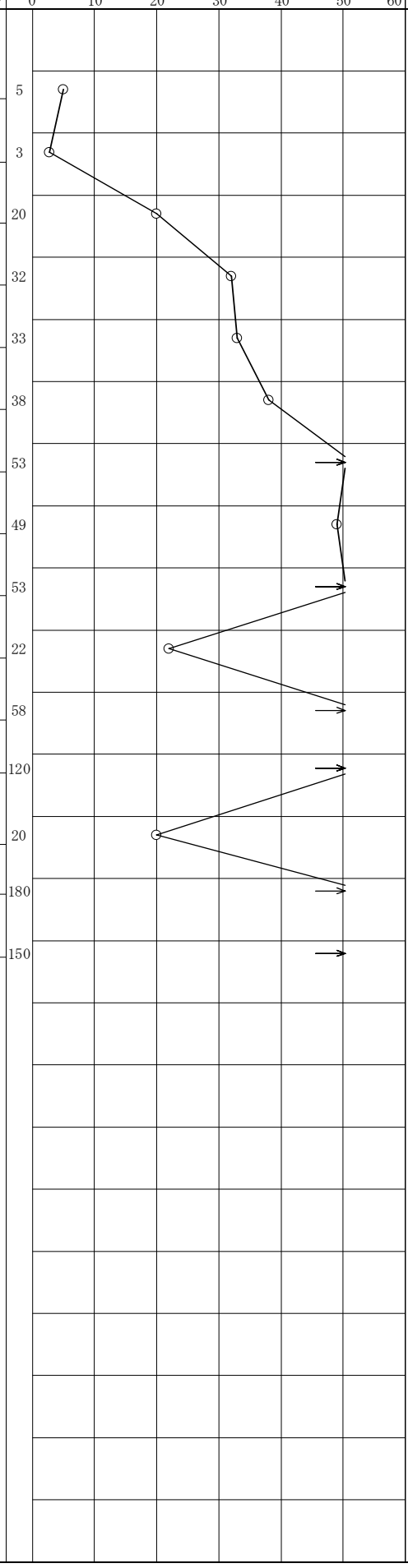
シートNo.

ボーリング名	B－2	調査位置	立川市泉町地内			北緯	35° 43’ 12.0″
発注機関	立川市			調査期間	平成 22年 5月 19日 ～ 22年 5月 19日	東経	139° 23’ 59.0″
調査業者名	電話	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H= 97.53m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KR－100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	15.27m								エンジン	NFD10N	ポンプ	V－6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	96.88	0.65	0.65		盛土	茶褐・暗茶褐			0～0.15m砂礫主体。 ～0.65m礫混り砂質土。	
1 2					ローム	茶褐		軟らかい	均質なローム。 2.00m付近 少量の火山砂混る。	
3	94.43	2.45	3.10		砂礫	茶褐灰・黄褐	密な～非常に密な		φ2～50mmの亜円～亜角礫主体。 含水少位～5.00mより多い。 マトリックスは細砂主体。少量のシルト混じる。 6.50m付近 逸水する。	5/20 5.26
4 5 6 7 8 9	88.33	6.10	9.20							
10	86.78	1.55	10.75		凝灰質シルト	黄灰		非常に硬い	上部固結し、棒状コアとなる。	
11	85.68	1.10	11.85		砂質シルト	暗青灰		固結した	細砂を不規則に混在。下部固結し、棒状コアとなる。	
12	84.93	0.75	12.60		細砂	暗青灰	非常に密な		粒子均一。部分的にシルトを薄く挟む(1～5mm)。	
13	83.38	1.55	14.15		シルト	黄灰		非常に硬い	上部固結する。 均質なシルト。	
15	82.26	1.12	15.27		シルト混り砂礫	黄褐灰	非常に密な		φ2～30mm亜角礫主体。 マトリックスはシルト質細砂主体。	
16 17 18 19 20 21 22 23 24										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5／30	5
1.45 2.15	1／11	1／11	1	3／32	3
2.47 3.15	6	7	7	20／30	20
3.45 4.15	8	10	14	32／30	32
4.45 5.15	12	11	10	33／30	33
5.45 6.15	16	14	8	38／30	38
6.45 7.15	16	16	21	53／30	53
7.45 8.15	15	13	21	49／30	49
8.45 9.15	20	13	20	53／30	53
9.45 10.15	5	7	10	22／30	22
10.45 11.15	11	20	27	58／30	58
11.45 12.15	36	24／5		60／15	120
12.30 13.15	6	7	7	20／30	20
13.45 14.15	60			60／10	180
14.25 15.15	43	17／2		60／12	150
15.27					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日
5／19

ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

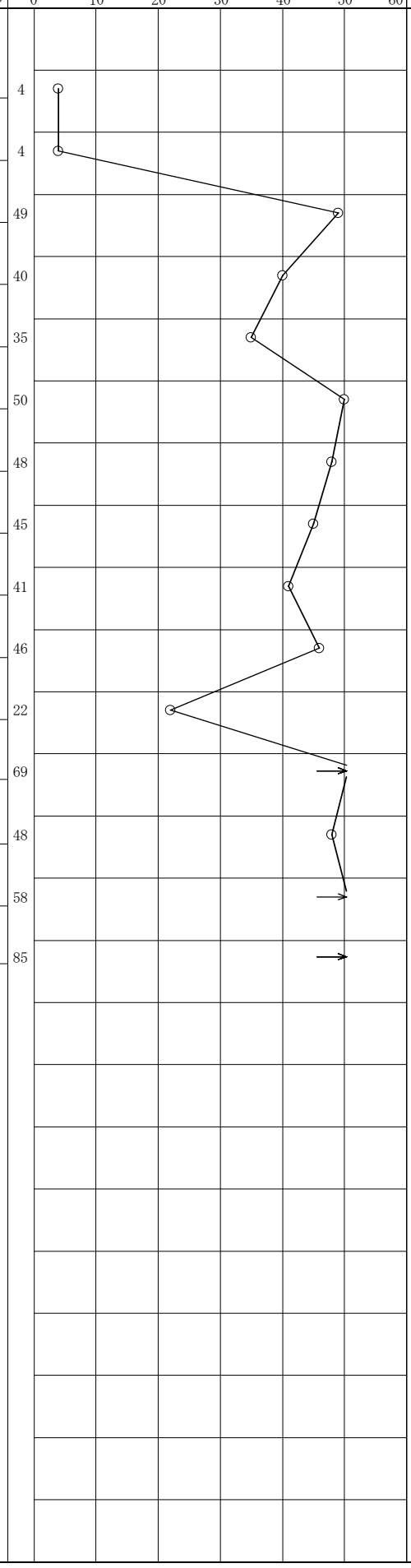
ボーリングNo.										

シートNo.

ボーリング名	B－3	調査位置	立川市泉町地内					北緯	35° 43’ 12.0″
発注機関	立川市			調査期間	平成 22年 5月 18日 ～ 22年 5月 20日			東経	139° 24’ 1.0″
調査業者名	電話	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H= 97.23m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	
総掘進長	15.38m					試錐機	D0	ハンマー落下用具	半自動落下
						エンジン	NFD8	ポンプ	V－6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	96.43	0.80	0.80		盛土	暗茶褐			全体にローム質土主体。	
1					ローム	茶褐		軟らかい	均質なロームである。 炭化物混入する。	
2	94.78	1.65	2.45							
3					砂礫	暗褐～褐灰	密な		φ5～50mmの亜円礫～亜角礫主体。 最大径はφ80～100mm程度。 マトリックスは粗砂主体である。 孔内がくずれやすい。 5.00～6.00m 所々泥水が逸水。 8.00m付近よりマトリックスに粘性土混る。	5/19 4.60
4										
5										
6										
7										
8										
9	87.53	7.25	9.70							
10	86.43	1.10	10.80		凝灰質シルト	黄褐		固結した	固結状呈する。少量の砂分混じる。炭化物混入。	
11	85.53	0.90	11.70		砂質シルト	暗灰		非常に硬い	均質。下部にしたがい堅硬。所々砂を混入。	
12	84.33	1.20	12.90		細砂	暗灰	非常に密な		粒子ほぼ均一。 密に締まる。	
13	83.43	0.90	13.80		固結シルト	暗灰		固結した	固結し、棒状コアとなる。 下部色調黄褐となる。	
14					砂質シルト	黄褐		固結した	全体に砂分多く混じる。 全体に固結状を呈する。	
15	81.85	1.58	15.38							
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	1	1	4／30	4
1.45 2.15	1	1	2	4／30	4
2.45 3.15	13	17	19	49／30	49
3.45 4.15	13	12	15	40／30	40
4.45 5.15	12	11	12	35／30	35
5.45 6.15	20	17	13	50／30	50
6.45 7.15	12	16	20	48／30	48
7.45 8.15	14	16	15	45／30	45
8.45 9.15	10	12	19	41／30	41
9.45 10.15	15	15	16	46／30	46
10.45 11.15	8	7	7	22／30	22
11.45 12.15	14	28	18／6	60／26	69
12.41 13.15	12	15	21	48／30	48
13.45 14.15	14	22	22	58／30	58
14.45 15.15	21	28	16／3	65／23	85
15.38					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				5／18
				5／19